

安全への提言



社会変化と安全管理

や 八 ひろ 尋 しゅう 修 じ 二 †

ここ数年、企業取り巻く環境変化が、スピードが速く、且つ大きく変わってきていることを実感する。その結果、我々が取り組む環境安全においても、過去とは異なる課題も益々多くなり、特に、過去のそれらとは、性質が大きく異なってきている。環境変化としては、気候変動対応への温室効果ガス削減やサーキュラーエコノミーへの社会構造変化、自然変化としては、従来の地震・津波に加えた激甚化する風水害等、新型コロナウイルス感染症の拡大による事業活動への影響及び企業での人財の多様化等が挙げられるが、一方我々にとって有効な武器である DX 技術等も現場にも展開されてきており、行政も積極的に支援している。筆者は、企業の環境安全部に在籍しているが、このような大きな自然や社会状況の変化の中で、企業の環境安全活動においても変化が求められていると考える。

まず、生産現場の安全活動に関して、キーとなる現場の部課長層の管理者は、従来からの業務に加え、上記のような過去とは異なるタイプの課題を検討し益々多忙化している。更に、ここ数年の新型コロナウイルス感染症拡大に起因した現場リスクを低減しながら安全・安定生産を維持している。更に、現場運転員は、生産の急回復に対応しながらも、若手運転員の教育も行っている。この状況では、安全文化でも重要とされている現場運転員と管理者の接触の時間が少なくなり十分なコミュニケーションが不足がちになるし、安全システムで出発点となる現場と一体となったリスクアセスメントの深さの問題も発生する。このような状況では、DX 導入だけでは、現場の余裕は生まれない。

今こそ、過去から継続してきている安全活動を棚卸し、効果を評価して、組織にとって重大なリスクは何かを再度見極め、効果が少ない活動を止めるリーダーシップが重要となってきた。

又、現場では人財の多様化が進んでいる。部課長層の世代とは異なっている環境中で育ってきた若手従業員や他社からの中途入社者、定年延長者、部署によっては外国人の方も従事されている。このような人財環境の中では、従来の組織構成を前提とした人財育成や組織運営での安全管理は難しい。リスクアセスメントをベースとした現場の機械化や自動化及び安全システムの導入、運転支援の DX 化も進めなければ、サステナブルな現場の維持も難しくなる。更に、このような多様化された現場においては、ソフト面での従業員の心理的安全性確保という面でのケアが、生産性だけではなく安全面でも益々重要となる。

先に述べた、過去とは異なる環境安全課題に関しては、その分野での専門家とのコネクが重要と考える。勿論、社内で育成すべき専門分野は長期的な視点で育成すべきであろうが、分野によっては社外専門家も入れた環境安全体制の構築も益々重要になると考えるし、必要であれば会社間で協業しての取り組みも今後考えるべき視点と考える。

以上、今後の環境安全を進める上で想うことを書いてきたが、企業において安全はその基盤であることは社会状況が変わっても変わることはない。今後、変化する社会の中で、過去の環境安全の考え方に捕らわれない安全人財の育成したいと考えている。

† 旭化成（株）環境安全部長：〒100-0006 東京都千代区有楽町 1-1-2 日比谷三井タワー